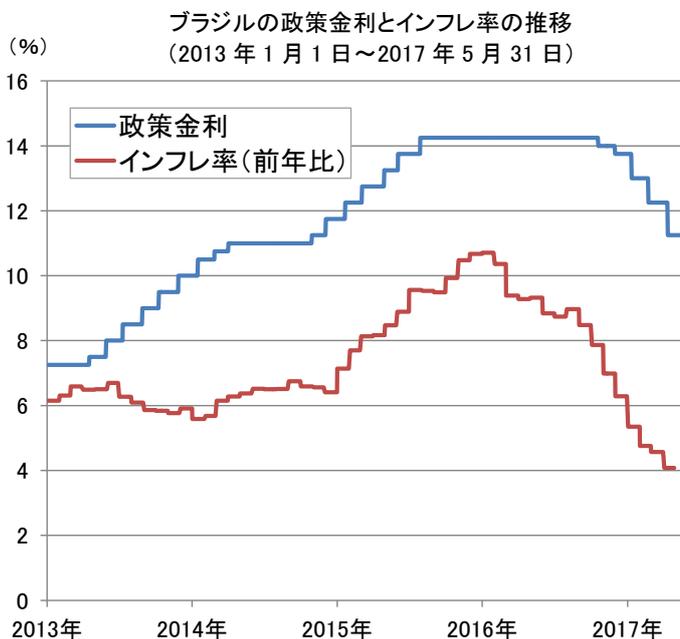


ブラジルの政策金利の引き下げについて

2017年5月31日(現地時間)、ブラジル中央銀行は、COPOM(金融政策委員会)において、Selic(政策金利)を1.00%引き下げ、年率10.25%とすることを全会一致で決定したと発表しました。

引き下げ幅は前回4月と同様の水準で、同中銀が以前より示唆していた利下げペースに沿っており、事前の市場予想通りとなりました。5月にはテメル大統領の汚職疑惑が浮上し、年金改革など財政再建に向けた政策の先行きが懸念されたほか、大手格付機関がブラジルのソブリン格付けを引き下げ方向で「クレジット・ウォッチ」に指定しました。こうした政治情勢の混乱が利下げペースに影響を及ぼすことが懸念される一方で、インフレ率の鈍化や一次産品価格が安定するなどの外部環境は改善してきており、今後も利下げ基調は維持されるとの見方が優勢となっています。

次回は、7月下旬にCOPOMの開催が予定されていますが、政治情勢は依然不確実性があり、金融政策や景気動向、市場へ与える影響等を慎重に見極めてまいります。



ブラジルの政策金利と変化幅

日付	政策金利 (%)	変化幅 (%)
2016年11月30日	13.75	-0.25
2017年1月11日	13.00	-0.75
2017年2月22日	12.25	-0.75
2017年4月12日	11.25	-1.00
2017年5月31日	10.25	-1.00

* 政策金利: Selic を使用。

* 出所: ブラジル中央銀行、ブルームバーグのデータより BNP パリバ インベストメント・パートナーズ株式会社作成

本資料のお取り扱いにおけるご注意

- 本資料は BNP パリバ インベストメント・パートナーズ株式会社が上記の時点に作成したものです。特定の金融商品の取得勧誘を目的としたものではありません。
- 本資料における統計等は、当社が信頼できるとされる外部情報等に基づいて作成しておりますが、その正確性や完全性を保証するものではありません。
- 本資料中の情報は作成時点のものであり、予告なく変更する場合があります。